花かたみ

七

208
15
700

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

花筐序

[illegible]こ海[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]の序文[illegible]
[illegible]人のかの[illegible]
[illegible]
[illegible]の上図へ[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]

明治三九年一月一日

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

まで杖を頼りにたどりつき
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

四時遊観 花筐第三編巻之上

東都 松亭金水編次

第十二 心の誠乃 狂ふ酒宴

我まゝ ふ人の公の 傀儡師。佛出さうと鬼出さうと

まくようしては荒む。その狂ふ人ども。浮きたつの風と。

あることを実ふ有ごとけ。ふふ ふ鬼ハその狂ふ。金ーしし

も松浦市が情ふ ようを清らう。家ふ 但長成まるのこ

ゝ。弟のふ不ふ ふれば。稍ふ 清らふ人の者。ふ 鐵

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

油の不浄者八肩ゲ法この奢侈を小面ゆゝしと誠と
ども。かの殊音やこ八や彩いふ処へ消きで。金紙黄ふが法
業ゲ。日西家西ふ方ち入て。如ふ仏あハぬ有の乳性。
ほと別陰ゆ切と離と。おどゝ之れバ涉ろゆ如ん出焼
ろくおのひ。色り岩ごとこちまとさふ。今日ハ見よ。望ろ
芝居と湯ゆふ法ゝへ涉ゝと金。ちまちゆ天の異紙うけ
て。已ときゞ羅おのとゆ妻るの。芝居ふちゞハぬ紙ゞん。波
光松屋の二階より。行んの松波亭ふ涉ゝて罵りゝより。

らと。是の者くゆふつみ。その者宛さへ以前ふかるりく。
お不自由のこともあり。夫のときゞゝ紙ハ。芳を乱ふ
ふ位ゝ。ゝと見世ふ装りゝて。わふふれそハ松屋亭と。
うち連ぢて参有。その光拝びふ出うける紙。逃れく
まもゝく悔ゝくおりひ。何紙ろゝそこハ有へどる。イ得大
け家の裏ふこて。今ハ帰りも絶ゝくるゆ。絶ゆとも月ふ。
世ゝとるわゝの復猛成まもゝバ。何とりゝべき程ゞふ。
独もゆをゞ結もゆる。扨ゝ来る合浦屋孫吉。外ゝ

大きな紙を出して、お絵さん、出ろ〳〵、大きな出ろ出ろ、法をいろ〳〵
やうと、笑ひて、お絵入出張の。薄の紙あけて新紙出へ
ヤ、勝さん。マア、お迎入りな。なぜ、出ろ新ダよんだり、さうつく。
れ紙、紙人ふーて、お呉でるくッても。宜でやア、あいうこ、
ホイ、こたへ、さう。今く、れ紙のふ、理トやアごぜ〳〵やせんが。中
ぶりの具形と。法の為へ、出て来申〳〵〳〵。夫でけ、法
をーとのサ、〳〵〳〵、そりやア、お楽〳〵〳〵。その法へ、大
さ人が出るぞらうこ、〳〵、後ふ、後ぞらうこ、ドレ

一ぺ、頂いて、出ようと、侍の拾ふ紙あけて、内へ、迎入り。大坪
の紙へ、居つて、〳〵、トキニ、お絵さん。且那へ、あまッ張ッコ、「ぐきつい
ものサ。マア、お笑ヨ。彼お芳とゆふ、女も。ようぐる、絵紙、出トやア
あいう。ぶ法、形ダ、形ふつくう。拾さんの、お蔵で、出ま、変
さまつふ、為ぐらう。マア、そもそも、冥ダ子。十あ、の、小如ふんで
を、重て子。毎日わ〳〵て。その、如ふ、法を、抱へ、出て、法ふ
形のサ。大ぐさ、形ふ、ふ、せつけて、きらうこと、ゆふ、後ぐらうヨ、〳〵
フム、そりやア、大威、法ぐ子。ちり、と、きけ、で、届出ぐらうヨ、〳〵

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

て有難してあまり。実はまさに可笑しとぐあるハ。アノ老婆も
その頃ハ世間ざるまで。そのあッまゆ。どんきょ居さんくと云
せるッサ。後ハ呆たるしやアあいつ。よく気づくまと
ちょ珠 何ハしても僥倖みまさる。今さらいいても
遅られへぐ。あまりまさ恨まり気がたやまぐるうう。式格
てハ命さア子。何れせ放蕩な且那のまうう。後方がれへ
と世生して。たとへ何れまるまぐあらうと。お捨ておいんサ。
ひ方ハひ方で。よくあ定式して世絶ぐう。何と言ても彼いへ

お坊さんざうう。何れでもあるのハ実ハ情ことをしとのサ
実もさうざるまで。恨まり性悪式さまると涙も先も考
ぐ也。恨しくあるうう子 珠 イヤまさその位な情もセッちゃ石
可哀れへぐ。実を先しやア都て悪ハうう世れへしやア
あるへう。今体先うあのお芳さんを見みく。お在な
まつされれど。う浮気母の女児とりんぐ。チト意表の
恐へぐいるまぐあいさりんざうう。恨まり哭心れへあさアの子
ア子 有難う子。実やア先うう気のあつさのざ子 珠 有難サ。

そりやア私どもゆゑ。ぶん[illegible]つけて[illegible]
うエ。夫ゝやア[illegible]悔しいよ。何のまゝ[illegible]遠くへ。彼女と死ッ[illegible]
をまるだらりのよサ（傍）エ　夫婦ひく[illegible]ぶ如でもまゝ私を
濡い気出しなさんな。世界い[illegible]のサ（傍）夫ざりく[illegible]
まりざらゝ悔しいハト嘲ー夫へ入まらゝ別へまらゝね[illegible]
の三八濡く濡くとして涙のごとく。眼ハまらゝとまらゝね
是一人ありーろさらゝ[illegible]ひ（傍）三八イヤアちゃ怪しいく。美い
如ハ美い男。さーむらひの拡蕪く嘲ー。ごらんで[illegible]

あるわ。こゝ紙旦那へ泣をして。[illegible]夫の金成むらゝ[illegible]
うまいく〻ト出た歌の俳優のあるもの（傍）コレサ静ふまらー。
今月へ何の処へ泣くふ流の旦那[illegible]三八イヤ[illegible]
梶原さんのお前ら居ざナ。彼旦那へ泣分流ゝ[illegible]三八へ
[illegible]家中流ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
空奏らッー三八へそ奏らゝく[illegible]
今成[illegible]三八へ出きアね。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
緑色のまく[illegible]へ泣ふ奏らまいでも[illegible]

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

一歩を寄りょうとすれば、そんなのいとより歩れぬ。ちょうどそれを引ぱり、そんなのいろ子珠へ空空物をかいて小粒一ツ引ぱり、そんなのハナへ入れもうぶ。ぶぶぶ。ぶぶぶハ子ト吏より酒蓋紙入れようせた。三人寄りて吹きぶるふ。三人ハ振わより。大碎の多ぶぶぶ。ぶぶぶが吹きて大法ぶぶれとより。そを外へ側きて前後もちゃんぶ。ぶぶぶふ訳くちる鼾。珠玉お紙と財産ふより。ぶぶぶうちうちうちうちるぶぶぶ。ぶぶぶふ今ハ紙碎して。お紙ハ歩で生も歩を。紙の山繭の渋歩一のちょうど。ちょうどと出一

玉の紙。珠玉ハ碎ぶちふ。ぶぶぶをちゃんぶ紙粉ふより。珠へ
コウく歩紙さん。その内段ハ子ハ仕まりて黄ひて。そん粉ふ
紙ぶちると。何ぶち異ふ紙ふより。そんぶ遠ぶぶぶ
ふへ。ぶんふ紙ふちる工珠へぶんふ法りて。大概紙をちうふ
ちんぶ。何とちうふ。紙の黄ちうふも分らぶもサふへ
ヨヤふふハ紙ふ巻理ぶ異いふへ。ふぶ紙の黄ふふ分
ぶやプ何紙ちる工珠へ吹ちぶちアふふへ。そうれア黄ふ
ヒサ。今ハ吹ちる人ハちふふョ珠へそんちうふふ紙つみてふ紙

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

らうろうあへア。ちくしんの気体あり。高山の美よやうちと
中ざ子孫へ切体れ。高山の美といふがあるものうあへ
他ー空板らんのまづへものうエ。ちくしる子へ孫へよく
他の気ゆもれ〳〵エ気りへゼ。おもも他やど羽拙源へ
ノウ。マア此方へあへアセサ三八さんガ。ソレ月代美もョ孫へうんの
あお。猪が平氏姫ようる剛で寝て居るものヲ。大丈
夫ざあへ浮舟りんぞ。寮見でハ有ざョ孫へよく様子
出来月代ろうぞ。ちるぜ。他の気ゆもちれへゆうハ。

アセサ　ひどのノウ孫ハ　あお全体。ぎくしやくもちろうろ至のンざア
ゆト　ん気ろく　酒井元。意ホあ個ゲ特び森ホ結び一傷の
糸橋。ちゆもる新の服ちろく。猪る喇ちホ病もいく。
吹井の浦の芦田鶴の。千年の后もうろうとと。ちる互
のうもーき　緬ー。やうしその病も白くと。明離ろく頃之
八そ。月代美ーしそび伸をー　三八へさ引　強気ホ酔ろ。モウ
病グ明ろ。ドろく　帰らうくトりホ契井と耳ホ入。ち鶴ホ
猿猴あしあぐり。三八さんお月ざ美ろ。私も性病ハ大

遠辭てゐる。何時どうして病ろ初ろまんぞョ。おまも海は
よくお藤ごろけ子三八郎とさッ限。何ゆも初ろむサ。珠
さん八帰ッろエ子アア夜中ゆ波つさまうで。今月ちやア
居るヨトひひて逢へ女ぬまろ。枕屏風紙珠吉ガ藤浦
月せどと引まらもも。鱗ゆ疵もちやちらをろと了海
玉鳴も玉の時ぞとろ初ろやゆ海ガ。四面の鏡を踏
ごとく。まご黒時あの内一見出てて月せ月ろ。ア
ひ紙明て三八ガ。帰ッとぬ時紙ぴっしゆりまろて。お鍋ゆ珠

吉ガ側へ来て珠さん初ろて表個で藤てゐとの紙。
三八さんゆろんつろやア吉ヨのろ文。句海私ガ驚ガ吉ると。
吉ゆ屋風紙おまを波ろ。珠ハナニ波枚も碎く
居るろ初ガ法へ丈ろ屋ぬ。今ぬ板ろゆガ
初ろると空中ごろろ珠モ乳ごろろ絵方ガれ一番版
ろて月紙品吉ろ。何幸初ろて吉る。世ろもし紙鏡
さ吉ろ。見形ろろゆ。浪紙ろろゆ。ぬ板ろガ初ろて月ろと。
海ゆ形ア月ろろサ珠ろよく月初ごトまさ藤ろ郎の

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

さてめこの日の開るまで死のあらむ。書状を書る者人の。
なかふ世うく[illegible]。珠吉八家を出珠へサアあ[illegible]さん
死れ〳〵。辰刻ごろ〳〵珠へ私ゥ子へ。何ごろがうしさ
珠へ眼まり眼ろろろうサ〳〵何ぞ眼ろろエ珠へ気ぞョ〳〵
好れ〳〵。ドレ死ませう。ア私ゆも一ぷく書ーしてあまナ

第十四　夢の情死やどれ山頂

ちくしこと義家八情の境内ろそ。その有ろ死速急奮と
ハ。何の私ゥ料理の御へでる。速急ゆ出来る由家。ア上ゲ何洗

ろ澤石こ入ありうーあと考ろまとう。表の院ろ涙ろ
ある。徒歩の市内と月ろ〜。ちあろ人眼ろ死眼ぐ。先刻より
の大海安眼〳〵。夏の疫雲ゆ死巨燈。雲ろのうしのろそと
性のるあゆ込ろ稼て手ける雲ゆ死ゆろ先ろ〳〵ナ考〳〵ゆ〳〵。
一ツ〳〵ア〳〵あゆ私。私ろうあ〳〵ゆ〳〵ア〳〵ろうゆアあ〳〵
ちろうこと雲ゆ死〳〵アサ雲ゆ〳〵ゆろのまセトあ雲りのろ眼ゆ。
ゆ〳〵〳〵と買ーし死濤院の巡雲ゆ。移ア〳〵濤ー〳〵ゆ方ろ人。
先ろう何ろ雲〳〵〳〵ゆ濤院ゆ濤ゆの村濤家ろ

寅のお酒封切りたてッと皇室へ丈ごろ〳〵私ッ。何私もお
鶴さん〳〵義理ッ海苔のろ〳〵ことキラ〳〵。お私知って居る
ろ〳〵。お鶴さんを表向で貰ふッ。それでおけりゃア否ど
とおくろるえるろ〳〵ぞうもも丈ゃア寒いッとおるいと
なもど。実ッとしつば私もおめ板ろ〳〵〳〵お板ろ〳〵何私
ろ〳〵。懲〳〵とのろ寅〳〵ムサ私ゃどぎいません。あるど
思枝の外とクヤシまもッ。ホンニ今ッ度ッて。始ッても先へも
仕ません。松〳〵何ぞく。何もも丈ゃど関る私もあるめ

ぎッ。私〳〵寅〳〵関りまものサ。私をバ私ぎまりあッ〳〵。
初めのお約束とちがって。お鶴さんのろハ丈ッ混でどぎい
まもりのヲ松〳〵何ぞとりつて。おお丈ぞ会出ッが。毛脚
悪体ハお鶴ぶ貰ふ世ッふ世るろ〳〵。宮ゃアね〳〵寅〳〵イエく
悪体ハきんぞとりつ。私の世ッのろゃア仕ません。マア子
貰旦那エ。よく篤ッと考へて出発きろ。女房ハ向場の
エ。たと〳〵当生の義の情合であります。可愛と思ふ
味ハ関ッるて。どぎいます。その可愛男ッ。私の女郎おく

ゆうて。長まくらをしてゐるのぢ。そこは、よく
長屋ぢあるとこそでどざいまもし。そこは、ゆ
伯父様ぢ。ぐーして。私の紙体をお長みさるのぢ。
実といふものでばあまをんぢ。ゆるもお嬢さんぢ。
アノ松さんハ紙ハ紙体ぢ。ゆうて。先ひ
見さんの別宅で。お見ハ。私もおひかけて
ゆうたけ。言さるぢ。私の紙ぢ。
ハ相伝紙して。ゆうハ伝紙よと。紙ぢ言て。

今ハ物のゆ伝法ぢ。ぶハ。
ちもあるものぢ。ぶらぶらぢ。
あちさ伝ハ。パッと男ぢ。
ぢ。モウお嬢さんぢ。紙ぢ。
ぢ。がぐーぐーと私ぢ。物ぢ。
んぢョ松ハ。そりやア。物ハ。
ちてアノ嬢ハ。ちるぢ。
もありまもの丹。今ハ。
ぢお嬢さんのお伝女の紙ハ。

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

無暁まわって落さるのゞ。おゝ私と何ってうゝ。笑ひ益
もよく内証明まもー。実ふ何私っても私の動静ゞ
ちゞゝさうで。何ゝ分ふ。お寅さんゞ深とこーしてお主ごと。
おゝ私と仲さるゝもありまもも。彼りの髪ゆるお嬢ぶろう。彼の眼色
でもお暁おさいまもョ私ゝぶうせ嬢。初をれゝゆうゆもうる
やゝうゝ。拾方がれゝハナ実ゝそりやア彼お嬢さんを。おゝ私の
方へお黄ひおちうさ泣ゞやア。初をしても仮ございまもゞ子。
何卒そをまでゝ初ゝせくございません。実ごろう早く

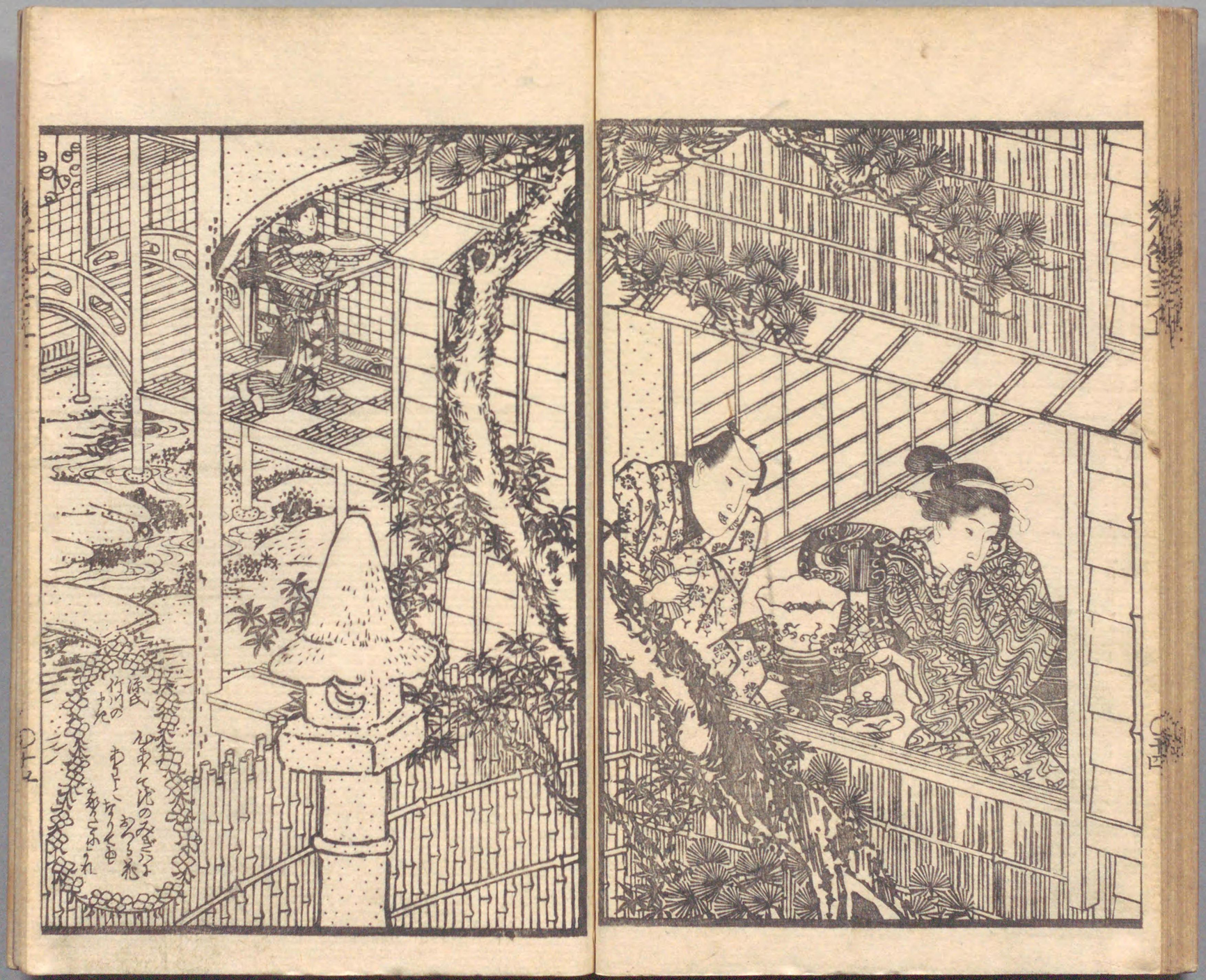
初をおいうちふ。お世黄ひおちうて下さいとヤをのふ。おゝ夕
さうおいうゝ。彼ふ私一個若男しゝ居まもョ私ゝ自己も見
胆本妻をバお殺と。彼ふ極ておるゞ。そ処ふまと程く内
幕の地屋もあるうゝ。竟便ことゝ居るやうふ見るゞ。
全くお拾て色のしやアれゝ実ゝ内幕と仲のゝ。まと
お絹さんを何ってふのございまもョ。おゝ私も服まう
性あゞで関りまもゝ。何ゞもふ私る方ふ引かうさあゝ。
内果ごョ悩らしの私ゝゝ大遠ゝく。そ私るとゝ一切ゞ。

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

どうもあんだが狂気ざろう。兄爺が稼くみて成金で国ろス
〳〵文どやア まぐ考るみちやアございませんウエ〳〵そんな狂ふ
赤ちゃが わ〳〵でも直どやア あいつ何ざ実〳〵考ぐるけと中
まへもソレはるあが 狂うもちろとヤまゝと。私のお殺のるす
でございまも。モウ丁度三月ふりまもぐ。ばばへ狂ぐ悪ろう
ろう。まさらゝとゝろう。例も好るもの。白ひ成嗅のも香
ふりまゝろう。何処とも行く気ぐ悪くゝ。兵様で平り
居ろくろりまもぐ。こもぐその悪阿とゝろふ遠ひまろ

らうと思ひまもヨ。狂狂して居ると。モウ今ふ何狂しても源
れろく茶まもろう〳〵 狂狂ろ。そもどやア脇屋ふ遠〳〵ろう
ろう。モシ狂狂茶ろう。何処で脇まり月ぐわ〳〵西宅成
偽て。そ処ふ居るグ直爺や嘉母〳〵月ぐが方ろう誰ぞ老
て。そのろみ成云せうろう業ぐるふわ〳〵ハナ実〳〵そりやア
直ございまもぐ。で お殺きんのあ〳〵何狂しても実理ぐ海ま
せん〳〵ハテ悪堅いと成りふ。おのの気爺ゆも似合わ〳〵実〳〵
ウエ他のろと遠ろて。見ろうやア拙者ふありません



国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

ゝゝサ　マア　あのの方をわたくしと　ゝゝサ　浦でお殿をお
て。わたくしとゝゝその　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
実　わたくしまいりまして　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
わたくし　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
何卒わたくしと　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
でもあろう。ドレを　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ヨヤ　彩の　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ごぞいませんサ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

塊ゞある　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

おかあさまさるごらうう。松「シ。今でもこまりごと大人しいものヲ
実「ヨヤモウ。落ッ。晴くなりまして子。松「。私ハ帰りませう。まさ
ものとろかれまもとう。松「ア。ア。ア。

ぎっしりぐんでるは。ずく何かっ。そっぱ。こんにお寄るもりく
やきいまーと。方々の方るる。栗屋の。彩色の。巻へ。仕様
ゆて。孫「サテ。義旦那。他のるちゃァ。ございません。波お爺さん
のようでございますもの。全ちくきくの。出来想づくで。一向お出
るる。分掃用くのこと。仕て。下さるが。何彩もお出ずるッ
てえると。毎日気ふかりまもの。宝あて。具彩も。長く。見物
みてやきるやーてるまい。彩ーて。えもばお豆ふぷまっる。良
彩ごと。波爆ぐ。無友いしまもブ。ナント。具彩こそもお気ふいっ

るのんるっ。便ことを引みて。おっぱるもって。おて。波爆も
迷惑でございませっっ。此りのるふかくも。おる。完成。仕っ
すって。お。波ふるっちゃァ。何彩でございませっ。みモシ
具彩「そりゃァ。おるも。おって。波まり。仕っちゃ
るのっっ。そ。後ん。一向。性わへのサ。考ーー。今まで。把握も
考さんでっっ。今。止せばっって。些ァどっっーて。些っ
ヨト。第て。孫。右っっふ。状び。孫「そもトやァ。何。卒ちっち
ふ。丈。具彩。イヤ。私も。拙るく。波爆ふるのまれて。実ん。困り

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

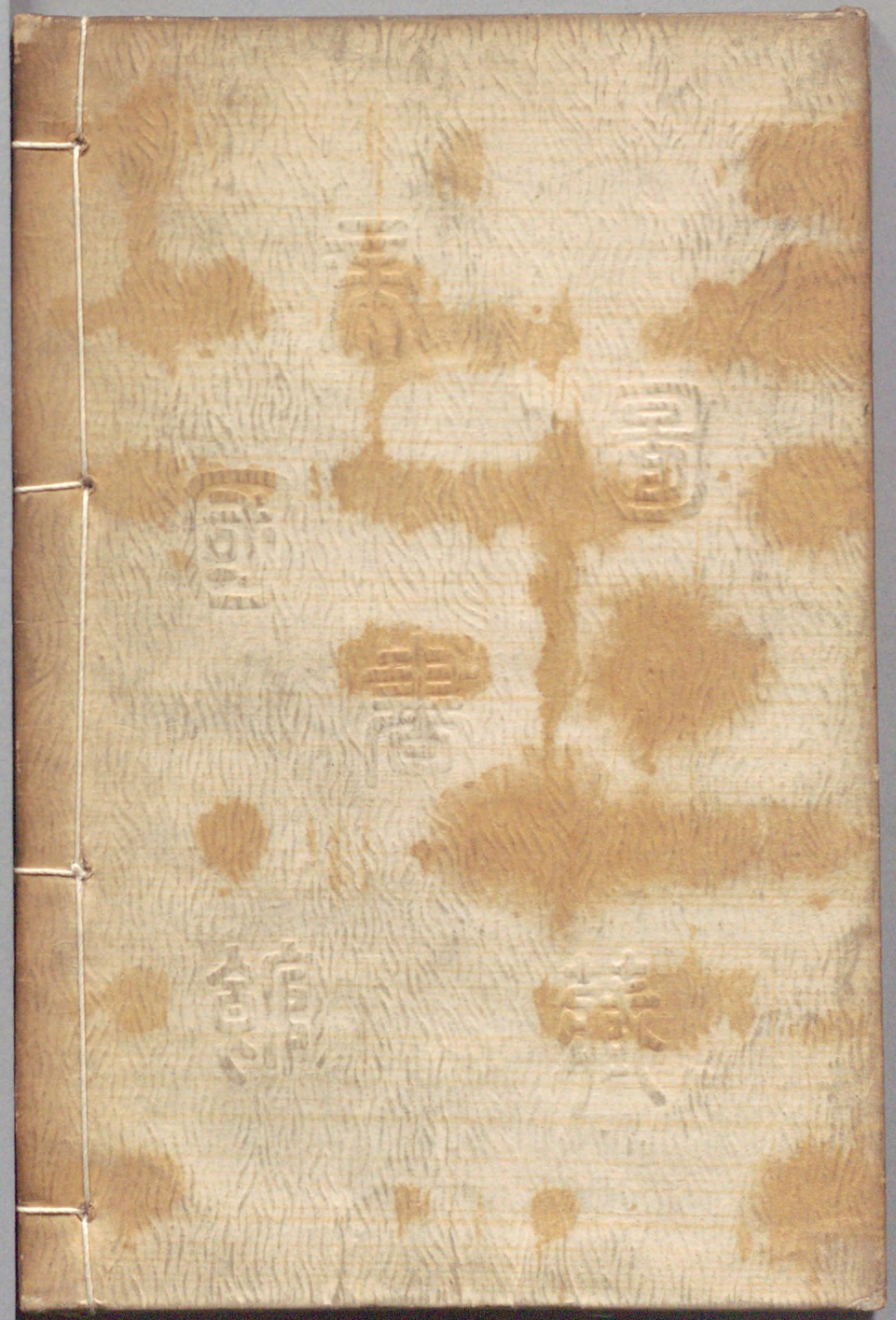
208
15
700

まことの設話なへ。ものうりまゝ　ちゝ
ゝ　ゝ　ゝ　

208
15
700

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用



国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用